科目ナンバリング					
授業科目名<英訳>	倫理学Ⅰ Ethics I			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　佐藤　義之
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	哲学・思想(基礎)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	曜時限	金4	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

われわれは日々多大なエネルギーを費やして道徳を守っているが、そもそも道徳を守る必要などあるのだろうか。この講義ではこの問いを導きに道徳を考え直してみたい。前期（「倫理学Ⅰ」）では、その問いへの回答の準備作業として、我々の道徳観の整理からはじめ、代表的な回答を紹介、検討する。（佐藤担当後期「倫理学II」と内容上一連の授業）

[到達目標]

上記の倫理の根本的問題について考えるために、まずカントの倫理思想を詳細に検討し、われわれの日常的倫理観を整理して理解し直す。その上でそれと対立する立場に触れることで、日常的な倫理観を見直す足がかりをえる。

[授業計画と内容]

（１）授業の方法、成績算定法等に関するガイダンス。履修希望者多数の場合は履修制限のための抽選等をすることがある。（第１回目）
（２）どうして道徳を守らねばならないのか――問題提起――（第２～３回目）
（３）われわれの道徳観の整理から――カントを導きに――
　感性と理性（第４回目）
　義務（第５回目）
　道徳的命令の形式と基準（第６回目）
　道徳と目的（第７回目）
　カントの検討…行為の結果／感性と道徳（第８～９回目）
（４）私利のための道徳（ホッブズ）――ひとつの解答とその検討――
　力学的人間観（第10回目）
　社会契約説（第11回目）
　権利の全面的委譲は必要か（第12回目）
（５）前期まとめ：結果論的倫理学と義務論的倫理学（第13～14回目）
フィードバック：詳細は別途連絡する。

[履修要件]

「どうして道徳的を守らねばならないのか」という、この授業で提起した問題をさらに深めて理解したいひとには、後期「倫理学II」（佐藤担当）の連続した履修を推奨する。

[成績評価の方法・観点]

授業時に随時数回、事前の予告なく実施する小テストによる。

[教科書]

使用しない

倫理学Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

倫理学Ⅰ(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

ノート参照可の小テストを授業時に随時実施するので、それに備えて授業ノートを整理し、復習しておくことが望ましい。

[その他（オフィスアワー等）]

受講希望者多数の場合は、教室収容人数に応じて、最初の授業の際に受講者を制限することがある。そのため初回は遅れず来ること。（※なお、この授業の単位修得者が引き続き後期「倫理学II」（佐藤担当）の受講を希望する場合は、抽選なしに優先的に受講を許可する）